

●概算事業費の算定

施設整備費 約22億3千万円(物価変動を加味した令和8年度事業者公募時の価格)

開業準備費 約5千万円

本施設の整備には、国の『地域未来交付金』(交付上限額10億円)の活用を想定しており、残りの財源については地方債を活用し、単年度の一般財源への影響を抑えつつ、将来にわたり計画的に償還していくこととします。

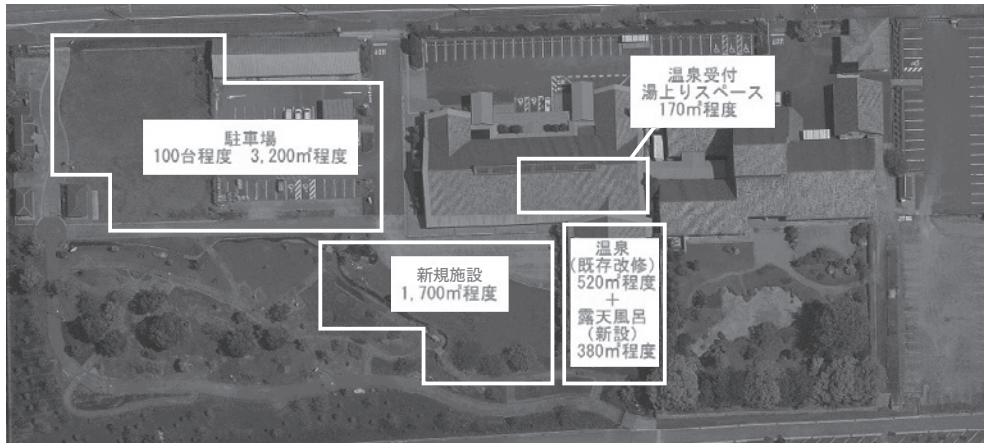
また、本施設の管理運営費は年間約1億6千万円を見込んでいますが、新規施設以外に敬老センターなどの既存施設の維持管理費用の約4千万円も含んでいます。

一方で、ふれあい温泉を含む再編後の新規施設のみで比較すると、現在のふれあい温泉の運営にかかる費用よりも圧縮される想定です。

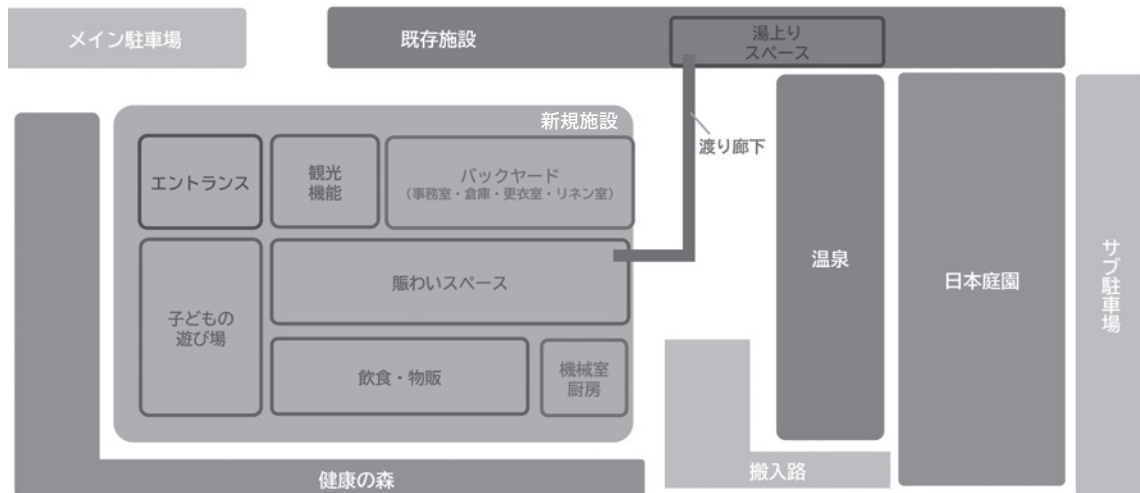
なお、管理運営費については、全額を村が負担するのではなく、既存の福祉機能や子どもの遊び場などの公共が負担すべき機能の維持管理費用は村が負担しますが、民間事業者が収益事業を実施する範囲(飲食・物販等)については、民間事業者が維持管理費用を負担することを想定しています。

●平面計画

施設配置の考え方を踏まえたゾーニング計画および具体的な平面計画(案)は以下のとおりです。



イメージ図



●今後のスケジュール

令和11年度の供用開始を目標として、次のとおり計画しています。

- ・令和8年度 公募資料作成
- ・令和9年度 事業者選定、基本設計
- ・令和10～11年度 実施設計、建設工事、開業準備

ただし、社会情勢の変化等により、スケジュールが変更になることがあります。

本計画の詳細は、村公式ホームページをご覧ください。

●問合せ先 開発部整備推進課



村公式ホームページ
「ふれあいの郷再編整備の概要について」



特集

ふれあいの郷
再編整備推進計画を策定しました

本村では観光入込客数の増加、村内店舗への誘客、雇用創出、村の魅力発信等、村の活気と魅力づくりを推進し、交流人口の増加を図ることを目的として、ふれあいの郷を観光交流拠点として再編整備します。

令和6年7月に策定した基本構想では、本施設の新たなコンセプトや導入する機能等を検討し、令和7年3月に策定した基本計画では、機能規模や配置計画を検討してきましたが、近年の物価高騰の影響もあり、建物規模の縮小や既存施設の活用等、今一度コスト縮減の検討を行うこととなりました。

ふれあいの郷再編整備推進計画(以下、「本計画」といいます。)では、基本計画で検討したコスト縮減案3案を精査した上で1案に絞り、事業範囲や事業条件を再検討し、整備に向けて官民連携手法による事業成立性の検証を行いました。

施設整備費の確保、既存温浴施設も含めたランニングコストの削減、事業者の参画意欲等の観点から、比較検討を行った結果、既存施設の改修を含む整備方針に決定し、事業条件の検討を行いました。

●新しく導入する機能・規模の設定

温浴施設は既存施設の改修を中心としており、以下のように設定します。

新たに整備する施設には、飲食・物販、子どもの遊び場、休憩スペースとイベントスペースを兼ねた賑わいスペース、観光機能等を整備し、既存施設改修部分と新施設部分を合わせて、延床面積2,770㎡程度の施設を以下のように想定しています。

各機能の想定面積(温浴施設)

導入機能		整備内容等	想定面積
交流機能	温泉	・既存施設内にある温泉の改修(520㎡) ・露天風呂を既存温泉と隣接するよう新設(380㎡) ・脱衣所等も含む	900㎡
	湯上りスペース	・渡り廊下と接続 ・温浴施設の受付も含む	170㎡
温泉および湯上りスペースの想定面積合計			1,070㎡

各機能の想定面積(新規施設)

導入機能		整備内容等	想定面積
交流機能	飲食・物販	・飲食は、飲食スペース(230㎡)と厨房(120㎡)を配置 ・主に地場産品の商品を中心とした物販を配置(100㎡)	450㎡
	子どもの遊び場	・遊戯エリアおよび受付、待合等を配置 ・収容人数は50名を想定 ・待合は賑わいスペースも利用	240㎡
	賑わいスペース	・休憩スペースとイベントスペースを兼ねる ・新施設内の廊下も兼ね、渡り廊下と接続	280㎡
産業振興機能			
観光機能		・村観光交流協会の事務室を配置 ・相談等は賑わいスペースも利用	70㎡
エントランス		・土足エリアと靴箱、エントランスホールを配置 ・受付機能(イベント利用、農業体験等の受付、案内)も含む ・エントランスホールは賑わいスペースも利用	100㎡
その他(共用部・バックヤード等)			560㎡
新規施設の想定面積合計			1,700㎡